

「一流になりなさい。それには、一流だと思い込むことだ」という本からです
生きる目的は、人間性を向上させることだよ

「人間は一生学び続けるのです。世の出来事を必然ととらえて、すべてから学ぶ。学び成長することが生きる、ということですよ」ある洋菓子メーカーの専務を船井先生に紹介したときのことで。社長である父が 70 歳を超えても、現場に立ち、菓子づくりのレシピを考えつづける。もう隠居してもよいのに……。

そう訴えたときのことでした。人間だけが無限に成長し得る、最大の資産である、船井先生の発想にはそんな人間観があります。京都に本社を置く和菓子企業仙太郎。いまは四代目社長の時代に入りましたが、三代目田中護氏の時代に大きく成長しました。日本一美味しい和菓子をつくる。その哲学のもと、工場から機械や冷凍庫を追放。鮮度第一の思いから、主要な販路の百貨店には、必ず工房付きの条件でなければ出店しませんでした。「ご存じ最中」「ぼた餅」の美味しそうな姿に人だかりが絶えないのも、その美味しさ、鮮度へのこだわりが認められているからでしょう。田中護さんは社長の時、「機械なんかより人間のほうが、圧倒的に優秀ですよ。ここを少し曲げてみよう、と言えはその場でできます。機械は調整やらなんやらで三カ月はかかるでしょ」「人間が機械の番人になってはいけません。自ら創造し、考え、悩むことがあってはじめて成長します。それが人間の本質でしょう!？」と話してくれました。人間は考え、創造することで人間たる存在なのだ、という発想にいつもうなずかされたものです。「人は、学べば学ぶほど成長します。成長してくれた社員は大切な資産でしょ。定年制度は、さっさとなくしました」品質を追求することを目的に定めれば、人間の品質差が企業の力となります。学び続け、成長を続ける社員が、他社とは違う品質を生み出し差別化となる。的確にそう考え、高品質を目指し続ける仙太郎は、個人的にも大ファンである和菓子屋です。

「会長、私は生成発展という言葉が大好きです。もっとよくなれ、よくしようと考える毎日だったらなと思います」思いもかけず、入社六年目で部長の辞令を手にしたとき、会長室に自然に足が向きました。まだまだ未熟なのは当然ですが、「学ぶ」という気概だけは誰にも負けないと、どうしても伝えたかったのです。

「世のため、人のために人間は成長するんだけどね、成長が実感できる毎日は幸せだ。世の中にはね、成長が衰退か、二つの選択肢しかない。現状維持なんてないのだから」

生成発展。人間の 60 兆個の体の細胞が、この瞬間、瞬間も立ち止まることなく新しく生まれ変わり、私たちはその細胞に生かされています。その動きが止まれば、仮に体の一部だったとしてもそこから壊死が始まり、人間そのものの死に至るでしょう。

もっとよくなれ、よくしよう。そのために、いま自分ができること、すべきことに全力で取り組むこと。成長は、そんな日々の積み重ねです。一人ひとりの人間が、生成発展の思いを大なり小なり胸にもつことが、地域、社会、国、そして地球全体を生成発展させることになるのだと、思いはじめていました。「そうか、随分と成長したね。人間の生きる目的は人間性を成長させることだよ。過去オール善、他者オール肯定、すべてを必然ととらえてすべては自分に原因があると考えて、頑張りなさいよ」

もっともっと早く年をとれよ。楽しみにしているから。いつものように、会長室の入口まで歩いてきて、私を送り出してくれました。生成発展。生きる目的が人間性の向上にあるとすれば、その道場として仕事が、そして人生があるのだな。会長室のドアが閉まる音を聞きながら、そう思いました。「人間性が高まる、それはな、人相をよくすることだよ」ふとそんな言葉を思い出して、思わずエレベーターホールの鏡のなかの自分を見つめてしまいました。

成長はどんな積み重ねと言っていますか？

()